

なのです。特にそれが女性の場合は最高です。それに気がついたら、「私の謡は趣味ではない、仕事なのだ」、などと聞き直ったのが恥ずかしくなりました。

今では私の謡は趣味で結構です。趣味が実益を兼ねているといわれても反論致しません。本物の能楽師は命をかけて斯の道に精進しています。

私のように謡を楽しんでなどおりません。

◎能と歌舞伎

よく能は高尚な趣味だといわれますが、私は趣味に高低はないと思っています。要は趣味を持つことによつて、心を慰さめ人生を楽しくすればそれでよいと思います。ただ能は大変わかりにくい古典芸術であることだけは事実です。そこでわかり易く能の解説をしてみたいと存じます。

能は面と装束をつけたシテ(主役)が、地謡(合唱団)と囃子(オーケストラ)の伴奏で謡い舞う、舞踊、声楽、器楽が一体となった総合芸術です。謡はその中から声楽部門だけをとり出したもので、いづどこでも手軽に楽しむことができます。仕舞はシテの舞の

うち見せ場だけをとり出して、面と装束のかわりに普通の紋服で舞うもので、これも手軽に楽しめます。ここで能と、能に非常によく似ていて、実は全く異質の歌舞伎とを比較してみたいと存じます。

能は六〇〇年前、足利時代中期に全盛を迎え、歌舞伎はそれよりやや遅れて発達したのですが、能はすべてに控え目な表現をとり、抽象的な所作をするのに対し、歌舞伎はそれとは対照的に、すべてにオーバーであり、具体的です。そのため歌舞伎は大変わかり易く、一般受けするのに対し、能はわかりにくく、退屈し易いということになります。しかし私どもが歌舞伎をやってみようと思つてもできませんが、謡や仕舞はやらうと思えば、誰にでもすぐにできます。

そこで私は、歌舞伎は「見るもの」であり、能は「するもの」であると考えております。聞いたたり見たりしても、さっぱり面白くない謡や仕舞が、自分でやり出すと、どんなに下手クソでも、面白くてやめられなくなるから不思議です。阿波踊りの、同じ阿呆なら踊らにヤソソソ、ということかも知れません。

私は春秋二回、私の一門を集めて「謡と仕

舞を楽しむ会」を催しております。わずかに四十名ばかりの、ささやかな会ですが、中野の藤舞台という所で、にぎやかに楽しんでおります。

前に申しましたように、謡は「するもの」で、見たたり聞いたりするものではありませんので、皆様に見に来て下さいと、お誘いは致しません。地謡(合唱団)の中に入つて、一緒に謡つてみようという方がいらつしやいましたら、是非お出かけ下さい。

◎幸せと思うことが幸せ

私は元来徹底した楽天主義者です。どうにもならぬことをよくよく考えて、不愉快な時をすごすのは全くバカバカしいことだと思つています。すべて物事は善意に、前向きに考えて、「なるべく楽しい」一日一日を積み重ねてゆけば、それで十分ではありませんか。世の中は所詮そんなに楽しいことばかり続くものではないでしょう。しかし「なるべく楽しい」かどうかは、心の持ち方次第だと思います。そこで幸せということについて考えて見ました。以下はこの十年余りの間に、私の幸福論を年賀状にしたため、三回にわた

つて皆様に差し上げたもので、ご記憶の方もいらつしやるかと存じます。キザなことをいう奴だとひやかされるのを承知の上で再び書かせていただきました。

幸せとは何でしょうか。それは自分が幸せだと思つていことだと存じます。私のいきどおりや不平不満は、周囲の人に迷惑であるばかりでなく、自分自身にとつて最も不幸であり、惨めであるといえましょう。今年もまた何はなくとも陽気に楽しく、充実した日々をすごしたいものです。(昭和49年)

幸せとは自分が幸せだと思ふことです。なにとキザな文句を書いて、皆様に差し上げましたのはもう六年も前のお正月でございました。でも人生にはいろんなことがあります。自分が幸せだと、常に思い続けることは難しいことです。そこでどんな時でも、自分は幸せなのだと思ふ努力、自分は恵まれているのだと自分にいいかせる努力が必要であると思ひます。またキザなことを書いてしましました。どうぞお許し下さい。(昭和55年)

しるこの甘さを引きたてるためには、砂糖のほかに塩が必要です。幸福感を味わうため

にも、おそらく不幸の隠し味がいるでしょう。私たちの人並みの幸福には、もしかしたら他人の不幸の隠し味がいっているのではないのでしょうか。つまり他人の痛みを自分の痛みと感しない、鈍感な幸福感であるのかも知れません。新年に当り、自分だけの幸福の追求

昭和二十年の夏

小崎 好一

今年もまた暑い夏がやってきました。夏になると昭和二十年の夏を思い出します。この夏こそ私どもの世代の者にとっては軍人であつたかどうかを問わず人生の中で最も鮮烈な夏であつたように思われるのです。ここに当時の手記があります。考え方が妥当でないところもあり、表現また稚拙ですがあります。まの情感を読んでいただくためあえて原文のまま転記します。

昭和二〇・七・一七 歩兵第一七八連隊第四中隊長から陸軍士官学校付(生徒隊区隊長)に補せられる。

同 七・三〇 満州国遼陽を出発。

一路釜山港に向うが同港が米機の機雷投下により封鎖され関釜連絡船が出航出来ない為止むなく北朝鮮の元山港に戻り、大豆運搬の貨物船山菱丸に便乗させてもらい祖国に向う。

海碧くして

昭和二〇・八

「とうとうやりましたね」機関長がそう云

つて船長室に入つて来た。頂度夕陽が斜に丸窓からさし込んで部屋を真白い梁に真赤な円を画いている。「えっ！」寝台の上に横になつて雑談に耽つていた私と船長は意外に真剣な彼の口調に、何の事だろうと跳ね起きた。

「大本営発表」ラジオの報道を速記したらしく乱暴な字が少ししわの寄つた紙面に躍っている。標題の「大本営発表」をもう一度見直す。「うーん！」私と頭を並べて報道を覗き込んでいた船長のうめくような声。そしてくわえていた煙草の灰がぼたりと机上に落ちる。「やつたな！」当り前の事と思ひながら私もつぶやいていた。

大本営発表 九日 十七時

一、九日〇時頃よりソ連軍は満州東部及び西部国境を越え攻撃を開始せり。航空部隊は北滿及び朝鮮に來襲せり。

二、日滿両国軍は之と交戦中なり。

何度読み返してみてもその事は嚴たる事実であつた。船が朝鮮沿海から愈々日本海の真中に出了た為だろうか、昼頃迄は静かな航海を続けていたのに急にゆれ出してくる。私は居たたまれない衝動にかり立てられて甲板に出

て見た。

静かなる日本海に今ぞ今

波立ちさわぐ 九日の夕辺

何一つ見えない大海原だ。ぞつとするように濃い青海原、所々に波の穂が見える。私は欄干につかまつてじつと立っていた。愈々始まつた大陸決戦の方を眺めながら……。

十八年五月、イルセ以来東奔西走せる大満洲の事どもの一つ一つが今更のように目の前に浮び揚つて来るのだつた。日本弱しと見当をつけて遂に來たソ連、この間遼陽で承つたばかりの関東軍司令部谷參謀のお話をその時思い出していた。「何故日本から積極的に中立条約の破棄を叩きつけられなかつたのか、その心の中は諸君には理解して頂けると思う」その一語だ。

来るべきもの來たりぬと思へども

尚うらめしき わがちからかも

「小崎さんは関東軍の將校さんだつたのですが、ソ連の参戦に関する見通しはずつと前からついていたのですか。」先程誰かが背後に近寄つて來た気配を感じていたが、そう云われてそれが船長であるのを知つた。私は夢から醒めたように振りかへつた。

つた船長の顔は、そんな馬鹿な、矛盾をしたことがあるものか、という激しい疑問の表情に変つていた。

「結論を云えばですね、見通しは間違ひなくついても、それに対して打つべき手はもう全然なかつたのです。拱手してその運命の日を待つより致し方がなかつたのです。」

「でも満洲事変以来関東軍という名は我々にとつて非常に頼母しく感ぜられました。北辺の護り敵たり関東軍といつて、量的質的に国軍における最大の精銳だつたのではないですか。」「ええ、そのとおり……」

「支那事変に於て支那派遣軍があつた広大な地域にわたり奔放に大作戦を敢行し、又今次大東亜戦争に於いてもその緒戦に雄渾極まりないあの進撃を為し得たのも、一に関東軍が敵として健在し北方に対する一大威力であつたからではないのですか。」船長は私に充分の答もさせず云ひ続けた。彼が今まで信じ切つてきた事柄が無残にも今根底からくつがえされようとするのに対し必死になつて抗争し弁明し続けているかのようにみえる。私は此処に一人の熱烈なる愛国者のあることを知つた。

心強し小さきキャビンの団圓にも
ほとばしり出す 神州不滅

祖先から受けついで彼の血は神州の不滅を確信しつつも、又理論的に物質的にその事柄を基礎づけようと努力する熱情が一語一語に切々として表われている。しかも又彼の所持し論じようとするその信念は、決して空念仏でなくて数十年來実行し、そして現に実行しつつある、確たる裏づけのあるものである。

私はその裏づけを潮風に鍛えられた彼の肉体と、そして真剣なまなざしに読みとることが出來た。私はこれから説明しようとする関東軍の現状が彼の信じきつていた状態と著しく隔絶し彼の心に対し一大衝動を与えるには違ひない。だがその事によつて彼の信念には毫も変化は來たさなうであらう。そう信じた私は躊躇することなくその事実を語つた。

彼は無言のまま聞いていた。そして私が一通り話し終つた時、「お話よく判りました。ところで関東軍はソ連を満洲国境で阻止できますか？」彼はこの議論に最後の結論を求むべく詰めるような語調で云ひ放つ。

「以上のような兵力装備ですから、先づ緒戦においては相当多量のソ軍が満洲内に侵入

「そうですね……」それから後は言葉にはならなかつた。乾ききつた唇を噛みしめて船長の顔をじつとみつめる。今先きの瞬間まで考えていたこと、そのことがどうしてもすぐ私の口から出なかつた。胸いっぱいになった口惜しさが溢れ出て、声をぐつと押えつけてしまふ。怒つたような無言の一瞬が過ぎて感情が次第に平靜な状態に戻つてゆくにつれて私は過去の複雑な事実の中から重要な一語一語をさがし出すかのように語りはじめた。

「あれは五月でしたか、ソ連から中立条約不延期の申し入れをされましたね。この頃から本年中にはソ連が開戦することは、ほぼ確実だと見通しをつけていました。最近に至つては八月以降随時開戦しうる戦力と態勢を保持し、又保持する如く全力を尽くして努力している、という所まで判断していました。實に見事に判断通りだつたわけですよ。」

「それじゃ、こちらの準備は完全なのですね。」「いや、全く不完全です。」「えっ？」船長は妙な顔をした。私が云ひ間違つたのか、或は自分が聞き間違つたのか、どちらかだと思つたのだろう。ひと息ついて私は同じ言葉を繰り返した。間違ひでないということが判

するのは防ぎ得ないでしょう。ただその後において侵入したソ連及びその後方機關を相手としていかにして遊撃戰闘を實現し、敵の戦力組織を破壊するかどうかという事に期待をかけているわけです。しかしいかにしてと云ひましても手段はたつた一つ、兵個人個人の一人十殺、二十殺の奮戦によるのみです。」

遼陽に残してきた兵達の顔の一つ一つが浮びあがる。皆悲壯な決意に溢れた顔だ。

陸は満洲国境から支那全土に亘り、海は太平洋全域に、そして本土全空おおうごとく全世界の陸海空軍が完全無欠の包圍態勢をつくり、一挙に東京に向ひ総攻撃を開始する日のあることを覚悟し、一発の弾丸で必ず一人をたおし、手榴弾を十種でも遠くへ投げ、爆薬一個で必ず一戦車を破壊し、銃剣の折れる迄刺突せよ、と必死の訓練を重ねた日々であつた。

練りに練り鍛えあげたる兵達に
我祈るなり 一人十殺

甲板に並んで立つた私と船長とを夕陽がすつきり包んでいた。北斗七星が涼しく輝いている。今年の冬、ハルビン演習場の雪の中で兵達と共に仰いだあの北斗七星が。(以下略)

通信建設業界に勤めて

植 木 穰

信友会の皆様平素は大変御無沙汰致しております。皆様それぞれ第二第三の人生を意義深く送っておられることとお喜び申し上げます。私も会社勤めもそろそろ七年になり再び停年を目前にしておりますが、お陰で、身体だけは健康であいかわらずの日を過しています。

私は自衛官生活の最後の勤務が防衛施設庁建設部でしたし、現在も通信建設業界に勤めておりますので、本日は防衛庁関係の通信建設業務の概要ならびに業界におけるOBの皆様の活躍の状況について紹介致したいと存じます。

防衛庁における通信建設関係の工事は、皆様御承知のとおり、特殊なプロジェクト等は器材とともに調達実施本部から、営繕を含む

小規模工事については各級部隊から発注されていますが、大部の施設整備費関係の工事は防衛施設庁が執行にあたっています。

したがってまず防衛施設庁における通信建設業務についてふれてまいります。最初にその組織ですが本庁建設部の通信課を中心に、札幌・仙台・東京・横浜・名古屋・大阪・呉・福岡・那覇の各防衛施設局建設部設備課の中の通信係、帯広・熊本の支局建築課の中の通信係がそれぞれ実務を担当しており、工事はこれらの局及び支局から発注されています。職員の構成は、自衛官、技官の混成で、現在でも技官より自衛官の方が多勢であります。自衛官の中は陸上自衛官が大部で一部航空、海上の自衛官が勤務しています。防衛施設庁

の建設部門には施設連絡官として本庁、各局に自衛官が勤務していますが、設計、積算、監督等の本来の業務を担当しているのは通信建設部門のみで今では庁内でも特異な形態となっておりです。

またその歴史も、警察予備隊管理補給総監部通信課に始まり、昭和二十九年七月には防衛庁建設本部通信建設課となり、三十七年十一月防衛施設庁発足時に現在の姿になっております。歴代課長はおゝむね陸の一佐をもって充てられ現在の佐藤課長は、最初から数えて十六代目、防衛施設庁発足時からでも十二代目にあたります。

年々消化している工事は建築、土木等他部門に比べれば少量ではありますが、その内容は、マイクロ回線組織や特殊情報組織、各種レーダー組織の建設にまで及び、他の部門の工事が比較的定型的であるのに対して、まことに広範多岐にわたっております。なお近年の特色の一つは、防衛庁内の部隊、機関の工事に他に米軍関係について、十数年来米軍施設の移設に伴う工事を、数年来いわゆる思いやりと称する米軍施設の工事を担当している点であり、業務量は大幅に増加している状

況です。

さて次は通信建設業界の近況ですが、これは工事の需要が圧倒的に電電公社に傾り、その他は防衛庁をはじめとする官公庁、国鉄・道路公団等の公社・公団、米軍、各メーカー、ゼネコンを含む一般民需という状況です。業界を形成する各会社にもそれぞれ特性があります。すなわち、電電公社・国鉄等の認定業者としてこれからの受注を第一と考える会社あるいはメーカーその他の系列会社等多様であり、得意とする業種についてもそれぞれ特色があります。

現在、電電公社の工事は逐年減少の傾向にあり、国鉄及び官公需も予算抑制のあおりで停滞気味です。しかも技術の進歩は軽薄短小の言葉に象徴されるとおりで工事の量は必然的に減少傾向をたどる趨勢にあるといえます。このような状況です。通信建設業界は全般に不況であり、構造不況業種に指定されています。今後さらに電電公社、国鉄の経営形態の変革も愈々実施の段階に入りつつある状況で、関連会社にとってはまことに深刻な問題であります。これらを受けて関係会社におかれても新分野への進出を含めて体質改善に

懸命の努力をはらわれていることと考えます。このような状況下の通信建設業界で活躍中のOBの状況ですが、現在一社に二人、数人が勤務している会社が数社、単独での勤務が十数社に及んでおり合計四十数人に及んでいます。大部分の方が東京近傍の勤務ですが、札幌・仙台・名古屋・大阪・広島・福岡地区でもそれぞれ頑張っておられます。

これらの方々は、防衛庁をはじめとする営業面を担当する方、会社の現場代理人として工事現場で采配を振る方、設計積算業務、教育訓練業務あるいは総務業務を担当する方等多様ですが、いずれも自衛官時代に培った人格識見をもつて会社の中堅以上の管理者として活躍中で他の皆様から多大の信望をよせられている状況です。特に、旺盛な責任観念に基く管理能力と宅内、外線、無線、搬送と何でもござれの幅広い職能は特筆されるべき点と存じます。いかにせん業界は全般に不況であり、多数の方が直接間接に関係される防衛庁関係の工事もこのところ停滞模様と思われしますが皆様着実に成果をあげられているものと確信致しております。

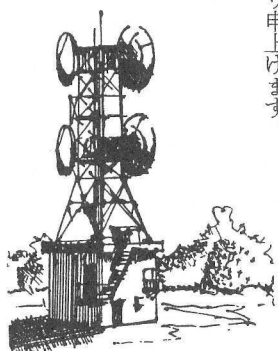
防衛施設庁の通信建設関係のOBで通建会

と称する親睦く会を組織しておりますが、その構成員の大部は信友会員であり、年に一度の懇親会には全国から多数の参加があり、信友会同様極めて盛会でお互に旧交を温めております。

以上防衛施設庁経験者を主体に述べましたが、他にも信友会員の中には通信建設業界に勤務される方あるいは自ら会社を興して活躍中の方もおられます。厳しい状況下ですが一層の御活躍御発展を祈つてやみません。

長々と拙文を弄しましたが、信友会員の皆様の勤められる職域の中では小さな地味な職域ですが不況にもめげず頑張っている通信建設の職域について御認識いただければ幸甚に存じます。

最後に信友会員の皆様の御健勝と御発展を御祈り申し上げます。



角力將軍

武田 照彦

(角 力)

私の勤め先は江間忠(えまちゆう)ビルという所にある。電話で説明するときは先ず、江戸の江とはじめているが、先日若い人が江川の江ですかといつたのには全く感心した。今の人たちはおそらく私の名も武士の武ではなく西武の武というのであろう。

私が幼い頃、はじめて書けるようになった漢字は「太刀山」、当時の大横綱の名である。そして次々に力士の名で字をおぼえて行った。今日の多彩なレジャー時代とちがって、プロ野球もなく、少年の興味は角力が多かった。私は中学生だった兄(久米彦陸士三十六期)の影響をうけたこともあって、特に角力が好きであった。

一年を廿日で暮らすよい男。という川柳の

とおり、相撲興行は両国回向院境内の国技館で一月、五月の二回、十日間だけ行なわれていた。それで全国の角力ファンはこの二十日間に集中的に熱狂した。

テレビは勿論、ラジオも無いこととて、結果の報道は新聞が主である。先ず毎夕打ち出しと同時に両国から身外売りが八方に走り出した。朝刊には前日の勝負がスケッチ画入りで記事になった。写真はまだ殆んど無かった。新聞の他に街頭の速報板があった。これは館内と電話連絡して、取組みが一番終了する毎に大衆に速報するもので、菓屋の店頭が多かった。菓屋の間には特別の電話通信網があったのであろうか。

店の前に丸太を組み、ちょうど今日の館内電光掲示板と同じ形に力士の名の木札をかけ

負けた方を裏がえしていくのである。これが人気を呼んで近所のファンが詰めかけた。

現在の仕切り時間制限がまだ無かったので長いのは三十分も仕切りなおしをやっている。その間、今か今かと菓屋の主人が札をかえしに出てくるのを待っている。今日よりはるかに万事がゆつたりしていた。

さて私も毎夕、菓屋の店頭で長時間たちつくす少年の一人であったが、やがて国技館の本物を見る機会を得た。その喜びは大層なものであった。

(将 軍)

大正八年の四月、私は小学一年生となった。学校は四谷の学習院初等科である。最初の日からとなりの席に、あごをぐつと引き、背すじの真直な少年が端然と座っているのに気がついた。席がとなりでもあり、この少年も大層な角力好きであったので、二人はたちまち仲よしになり、毎日手を取りあつて砂場に行き角力をとった。この少年、徳川家英、それこそ世が世ならば十八代將軍となるべき人であった。私の母方の祖父は幕府の若年寄職で曾祖父は老中の家柄であったから、考えてみれば不思議な因縁といえる。家英さんは中肉

中背、色白でどちらかというと華奢な方なのだが、角力をとってみると中々バネをもっていた。得意は出し投げと、ずぶねりという変わった手であった。

その頃、徳川邸は千駄ヶ谷駅前にあった。

戦前の地図から算出すると約二万五千坪で駅から南へ出て左が本邸(今は都体育館とプール)、また右が家英さんの邸(今は津田塾大学)であった。家英さんの三人の妹さんは本邸に住んでいたのに、彼だけはお守役の立派な先生(市原、土屋両氏)とこの別邸に住み、どうも女の人がいた記憶がない。江戸城の大奥と西の丸の習慣が続いていたものか。そのうち年が明けて一月場所が来ると、思いがけず国技館へのお招きをうけたのである。

徳川家の席はいつも正面機軸の中段中央という最上等の場所に定まっている。これは上様の時代以来ここであったという。となりは柳沢伯爵、すこし離れて酒井さん、井伊さんの席もみえる。まもなくお守り役の指図で家英さんとかしこまっっていると、家達(いえさと)公爵が来られた。慶喜公の次の十六代であるが、当時は貴族院議長、明治維新から西南の役とついで、何となく気まずいものが

残っていたと想像される時代に、徳川將軍を国会議長にしたのは名案であったと思うが、家達公はさすがにこの職にふさわしい風格と識見をもつ立派な人であった。大正十二年の地震までの間、国技館へのお招きは何回かうけたと記憶している。

(新 兵 器)

昭和十九年初夏、私は上総一の宮海岸で会議に出席していた。私が主務班長をしていた新兵器、風船爆弾の開発が進み、その量産についての相談であった。このときまで、軍事機密ということで製造は蒲田のK社内のみに限られており、陸軍省軍務局の國武輝人中佐(後の陸将)の案の二万発生産など遠い夢の話であった。直径十米あり、屋外作業は秘密保持の点と風の影響もあつて適当でない。このとき国技館がすぐひらめいたのは、全く少年のときからの前記の経験のおかげであった。私の提案は直ちにプロジェクターの草場季喜(くさばすえき)少将に採用され、「今からすぐ交渉に行こう」という速さで、一官から両国へ車を走らせた。このとき協会の入口へ出て来たのが出羽の海取締(元横綱常の花)

であった。力士も皆、勤勞奉仕や召集をうけ

て不在、今でいえば理事長が一人で留守番していたわけだ。「子らは皆、戦のにわに出て果てて、嬬やひとり山田守るらん」という風情であった。

国技館のあとは、日劇をはじめ各地の劇場等が一せいに対象となり、全国の勤勞動員の皆さんの手によつて約一万発が完成、特別編成の気球連隊(井上部隊)によつて九千発が実戦に使用された。この風船ではガ島出動準備とか、米西海岸遠征とか、いろいろあり、しかも皆実行直前で中止となり悲運を嘆いたものであったが、後年自衛隊に入り信友会の皆様とお目にかゝることができたのも、種々の因縁によるものであろう。

(む す び)

私が電気に興味をもつたのは小学生の時であるが、学校も電気科を専攻し、七十余才の現在も電気で余生を過している。私が電氣にばいしたこと、大きく影響した方々が数名ある。くわしいことは割愛するが、前記の徳川さんもその一人であった。残念ながら彼は東北大学々生のとき、病気で急逝されてしまった。ここに私の一生に大きく関係した薄命の貴公子のご冥福を心から祈る次第である。

ふるさと紀行

久野 春夫

峠の道は思った通り薄暗かった。緑を増した樹木が幾重にも折重なり強い日差しをさえぎっていた。鎌倉駅から四軒足らず、ここはもう深山の風情が漂っていた。どれだけの旅人がこの道を往来したのか。太刀を帯びた鎌倉武士、重荷を背負った町人……たゞずむと先人たちの足音が聞こえてくるようでもある。朝比奈峠―鎌倉にある七つの切り通しの一つである。

この町を永住の地と決めて住みついて一〇年私はこよなくこの土地を愛している。源頼朝が鎌倉に幕府を開いたのは治承四年（一一八〇）今から約八〇〇年前の話だ。三方を山に囲まれた鎌倉は、要害の地ではあっても、庶民の生活は不便であつただろう。幕府は、山を切り開き、道を造った。こうして鎌倉中

今でも歴史が生きている。県道鎌倉―金沢線の十二所神社前から右手へ入ると切り通しにかかる。小川にそぐわき水がある。「大刀洗水」の小さな標識、梶原景時がその血刀を洗ったと伝えられている。やがて道が二つに分かれ、滝が岩ツボをかんてしづきをあげていた。左手が六浦への旧道「史跡朝夷奈切通」の標柱、切り通しの由来が刻んである。上り坂になり山が深くなるにつれ、こけむした両側の木々が迫ってくる。やがて峠付近に出る。頂の標高一〇〇米、夏でもひんやりとする。

朝比奈峠は鎌倉で最もよく旧状をとどめている切り通しである。昭和44年6月、国の史跡にも指定された。鎌倉側五四〇米、六浦側三三〇米の長さである。最もこの切り通しは、昭和31年新道ができるまでは、住民の生活道路であつたという。新道を造るとき、この切り通しの拡幅を陳情したこともあつたというが、今にして思えば旧道が昔のまゝで保存された事がよかつた。

私の家は、朝比奈峠を越え県道六浦線に出た右側の小高い丘の団地内にある。朝比奈の地名がそのまゝ生きている場所でもある。住

居表示変更で朝比奈の地名が消滅しかけた事もあつたが、地域住民の要望でそのまゝ名前が残った。皆朝比奈の地名に愛着を感じこの土地を選定した事に他ならない。又近くに高速道路の朝比奈インターもありやはりその名

を永久に留める事にもなつた。

私は愛知県の桶狭間の近くで生れたが、近年都市化の波に荒らされて昔日の影もない。矢張り朝比奈が私の故郷であると最近感ずることしきりである。

めつこです。在隊当時は予算を如何に多く獲得し各計画を実行するかが最大の関心事であり又、努力目標であつた気がしますが、企業に於ては、その逆で如何に予算を最少限に抑え、そして売上げを増大するかが第一義なのであります。

中央基地通信隊勤務を最後に停年退官、先輩諸兄の御好意並びに地連の御助力に依り、再就職と同時に信友会入会の御紹介をいただいたことがつい先頃のことのように思われますが、早や二年半の月日が経過致しております。たゞたゞ我無者羅に毎日を過してきたようであります。

職種は今話題の情報産業系の会社においてのデータの入力部門担当であります。四ヶ所のセンターで女子キーパンチャー等、八十名程を管理し、毎月経費と売上げとにら

入社前から諸先輩よりお話しうかがつておりましたが、実状はより厳しく凄まじいということを痛感しております。

毎月の実績会議でも社長及び経理部長に対し、実状の釈明に四苦八苦を繰り返して居

る次第です。そんな日々にて、何よりの憩であり活力源であるのはやはり諸先輩や同僚の風聞であり、また再会した際の楽しいひとときです。皆様方が元気で活躍なさつていらっしゃる姿に接しますと勇気百倍、新しい力が湧いて来ますと共に、自分も又、その中の一人であるということに幸福感を得、希望が培われる思いです。

其のような訳で、私は自衛隊関係の各会合や連絡を何時も心待ちして居ります。中で特に信友会の総会は、最大の関心事であり楽しみでもあるのです。幸い東京在住ですので欠かさず参加することが出来、喜びにたえません。来年度は創立二〇周年を迎えるとのこと、めでたさもさること乍ら、諸先輩並びに久しぶりの皆様方にお目にかかれることを楽しみに一日を有意義に過し度いと思つて居ります。亦、ことに、幹事の皆様方の御労苦に感謝致しますとともに益々の信友会の御隆盛と御発展の為に御尽力賜われることを御願い申し上げます。

拙文ながら近況雑感とさせていただきます。「信友の集い重ねて二〇年 きずな深めて更に進まん」

近況雑感

岩田 孝一

南太平洋の昨今

渡辺 正

皆様には、紙上で初めてお目にかる人が多いと思いますので、先ず自己紹介をさせていただきます。

私は、昭和二十八年三月第十六期技術幹部(前期)として保安隊に入隊、思い出多い海軍通信学校(戦中昭和十九年一〇月一〇年三月まで入校していた)に入校し、陸上保安隊中央通信所(練馬)に配属以来、固定通信群(四谷)、陸幕通信課(霞関、檜町)通信学校を経て、昭和三十六年八月航空自衛隊に転官し、入間、春日、美保、御前崎、府中等を、転々として自衛隊を停年退職しました。

陸上自衛隊当時昭和三十三年二期AOCとして、通信学校に半年机を並べた同期が、毎年同期会をやり、時々親しい仲間がたむろしては飲んでいる。たまたま、私が下船して

休養している間、同期の野口、杉浦に逢つての席上、南の島々を廻った模様を書けと云われて筆をとった様な次第です。

船を去つて三十五年振りに神戸港で乗船、出航して船上の人となる。終戦直前の昭和十九年三月一九月まで、海軍病院船島砂丸に乗船してフィリピン、インドネシア、東南アジアを廻航して以来、思えば長い空白である。その間、海軍、警察、陸上、航空自衛隊と通信島を歩いて来たがよもや又、船舶通信に帰りつくとは夢にも思っていなかった事が、現実となつて、再出発ということになる。或日、同級会の件で電話をしたところ、同級生から「貴様今何をしている。ビルの中にくすぶつて、本職でもないつまらん事をしていないで船に乗つてみないか」と突然の話。「何を云

つてるか、今更ロートルで、陸の経験しかないのに乗れるか」といつて話は終つたが、再度電話があり、「今急拠通信士が入用でさがしている。是非乗つてやつてくれないか」とのこと。そんなに云われるならば決心するかと、急なことで、バタバタと船員手帳の申請入手、パスポートの入手、身体検査、コレラの注射等をしながら、突然やめるのだから後任者を定めて引継ぎもしなくてはならない、これが昭和五十五年八月半ば、八月二十六日であつた。

神戸港にて乗船、名古屋―横浜と船舶通信の実習生から出発となる。横浜着までの三日間、ベテランと一諸に乗つての実習である。思い出し、思い出しながら、三十年ぶり位いで電鍵をたたく。昔とつた杵柄、まだ忘れてはいない。九月二日一人淋しく横浜港を出港G.U.A.M.に向う。久し振りと云うより、始めてといった方が適當か、心細いことこの上なし、青海原へと乗り出す。来る日も、来る日も海又海、島影一つ見えない海上を一路南下する。第一航目は通信がうまくいくかどうかで神経の休まる暇もなく、緊張のしつぱなし、何が何やらさっぱりわからない五里霧中と云

つた状態である。何とか無事というより、曲りなりにも何とか終えて日本に帰り着いた時は、やれやれと肩の荷がおりて力がぬけてしまった。よくもまあやつたものだと思心臓ぶりに我ながら感心している。

本船は、約二カ月で南太平洋の島々を巡航する定期船ということで、自動車、雑貨、プラント類等を運搬しているの、大体同じ処を廻るので馴れてくると、至極楽な船旅という事である。

それでは、南太平洋の島々の模様を簡単に説明することにしましょう。

南の島々の特異というか、特色ある全体像としては、

先ず第一は、我々が昔見た南の島とは、様相が一変していることである。ビルが建ち並び、立派なホテルが出来て、道路も一応整備されて、日本各社の車が走り廻っている。又、ショウウィンドーには日本製の時計、カメラ、電器機具がずらりと並んでいる。中でも、立派な一流の街をなしているのは、G.U.A.M.、NOUMEA、SUVA、PAPPETE (TAHITI)、VILAで、その他は田舎の町といった感じである。

第二は、小さな島の所々に旧日本軍のトーチカ、砲台がそのままの姿で存在していることである。

第三は、日本の企業が進出して道路、飛行場、港等の建設をし、又、至る所に海外技術協力隊の人々が派遣されて漁業、農業、その他色々指導していることである。又、日本の漁業補償で、何とかやつている島も多い様に聞いている。

第四は、昔と変らないのは、白人、インド人、中国人等と現地人との貧富の差が、極めて大であること。現地人は掘立小屋に住み、男女をとわず街の中をはだして歩いている。現地人は働く意欲がなく、のんびり遊んで楽をして食うことのみを考えているらしい。女が非常によく働いている様に感じられる。

各島の概況

一、SAIPAN

御承知のとおり、今だに戦争の跡がそのまま残っているが、大きなホテルが建ち、観光客が多く、人口はG.U.A.M.にくらべ少い。

二、TENIAN

SAIPANより小さく、昔は海軍の軍港、

飛行場ありで盛んであつたが、今は人口は少ないようである。港は元軍港跡でSAIPANより大きい。漁船が多いからか、港の近くに飲屋が散在、フィリピンの若い女子がつかせぎに來ているらしい。

三、GUAM

MARIANA諸島最大の都市であり、皆様よく御承知のとおり。

四、TURAGI

SOLOMON諸島の中の小さな島。何も無い処であるが、この島に現地政府と③が共に、同で、ソロモン大洋という漁業会社をつくり、漁業と缶詰工場をやっている。漁船には、日本人が一名か二名乗つて現地人を指導してカツオ、マグロ漁をやっている。ある日の午後、缶詰の残がい棄てる船に便乗して平アジ釣りをとやれる。島と島の間の鏡の様な青い海を走る。底がすぐ通つていて、珊瑚礁の間を色とりどり、大小様々な熱帯魚が遊泳している様は本当に美しく、平和そのものである。昔、この海岸において、機雷が炸裂し、砲弾が飛びかい、艦船が沈んで、多くの人々が魚の餌になったことなど、とても想像出来ないのどかな真夏の午る下りである。棄て場所に

行くと、二〇隻余のカヌー(一人乗り)が、餌を呉れと集ってくる。各船に配分してやり、残りをまいて釣るのである。一かご海に流すと5〜6mもある罾の間に50〜80cm位の平アジが、群をなして集って来る様は、雄大というか、本当に絵に書いた様である。そこに釣糸をたれるが、魚が釣れたら大変、一人の手にはおえないし、我々は、とてもおそろしくて糸を持ってられない。現地人二人がかりで、やつと釣りあげた平アジ約70cmの大物、これは珍しく糸を切って逃げる方が多い。雄大な釣風景である。

五、HONIARA

SOLOMON島の首都

一本道の街をなしているが、田舎町の感じ、しかしながらホテルは一応立派であり、日本食の飲屋も一軒ある。

六、PORTIVILA

(INNEWHERIDES)今は独立してVANUATUの首都

ここは、元英仏両国の管理で、英仏人が多く住んでいる関係か、綺麗な街でホテル等も完備され、一応都会的な雰囲気を持っているが、小さな島であるから大したことではない。

同国の別の島のSANTOは島は大きいが田舎町である。この島には三井系のマクロ冷凍工場と、牛肉冷凍工場があり、台湾船のマグロを買いあげ、又、牛は現地飼育で、肉を冷凍して日本に送っている。

七、NOUMEA

NEW CALEDONIAの首都

仏国の管理下にあり、入江の静かな港でバースも南の島No1で立派である。又、ヨットが湾内所狭しと浮んでいる。非常に綺麗な整った街である。そして白人が非常に多い。町は立派に区画整理され、中央には大きな整備された公園があり、仲々しゃれた都市といった感じである。最初の航海のとき、びつくりしたのは、商店に「おみやげものあります。日本語せます」という看板が出ている。入って見ると、日本人の女性がいる。隣りの店には日本の男性もいる。日本人が居なくても白人は日本語を話す。この頃は、日本の新婚さんや、団体さんが沢山来るとのことである。

八、SUA

FIJI島の首都

旧英国の管理だったが今は独立している。この頃は、港に隣接して街が開けていて、我々

々々には一番便利な都市である。港も立派で南の島No2だろう。港は島にかこまれた静かな良港である。ここは余りヨットは見かけないが、ぼつぼつ浮んでいる。港に隣接してびつくりするような大公設市場があり、魚、野菜、果物等を、主として現地人と中国人が商売している。街はNOUMEAの様に区画整理はよくないが、道路は整備され、何時も人通りが多く、立派な公園もあり、にぎやかである。そしてもう一つの驚きは、この南の果ての島に日本大使館があることである。南の島唯一の大使館。立派なビルの一階に広々と陣どついている。概してSUAは、食料その他諸々のものが、他の島に比べ、品物も多く安いようである。そして行く度、必ず女の子が船まで押しかけて来て、飲めや歌えおどれのだんちゃん騒ぎ、毎度同じような顔をした現地人？インドネシア系の混血現地人であろうと思われる。いずれにしても混血は可愛くてとても綺麗である。

九、TONGA

トンガ王国は有名だが、何もないところである。だがやつと一隻着岸できるバースがあるだけましである。

一〇、RAROTONGA (COOK島)

バースもなく、沖荷役で上陸もない。

一一、PAPEETE (FRENCH POLYNESIA (TAHITI))

港から街まで遠く大変である。町は綺麗でビルも建ち並び、ホテルも立派なのがあるが、タヒチ、タヒチとさわく程のこともない。

一二、PAGO PAGO (AMERICAN SAMOA)

入江の小さな港で一隻やつのバース。入江の中には中国、韓国の漁船が沢山浮んでいる。マクロ漁の拠点になっているのか？毎話工場もあるらしい。大した町ではなく道路の両側に民家、商店が軒を並べている程度、何もないところである。

一三、APIA (WESTERN SAMOA)

ここは小さいが独立国で大した町ではないが、立派なビルがぼつぼつ建っている。市場に行くと、野菜、果物、魚等が非常に多く、安い。

一四、KIRIBATI (GILBERT島)

一五、MAJURO (MARSHAL島)

一六、PONAPE (CARORINE) この辺は昔と余り変わりばえせず、旧日本軍の戦跡が残っている。何をして生計を立てているのかと思われる有様である。

以上簡単に各島々を照会したが、南の島全般に共通して云える事は、どの島にも

- ① 飛行場があること。
- ② ゴルフ場があること。
- ③ 中国人が必ず商売をしていること。
- ④ 現地人は余り働かないこと。
- ⑤ カギをかけないと物がなくなること。
- ⑥ 白人、中国人、インド人が上に立つて、現地人を使っていること。
- ⑦ 働く者と働かない者の貧富の差が、はげしいこと。
- ⑧ 何処も海は実に綺麗である。
- ⑨ 混血の娘は美しく可愛い。
- ⑩ 現地でとれる果物、野菜、魚類等は非常に安い。

以上で南の島々の模様を概略お知らせしましたが、機会があれば、香港、フィリピン、ニュージーランド、オーストラリア方面の模様と南太平洋の島々の内面と民族等についておしらせしたいと思います。

NEC

日本電気電波機器エンジニアリング株式会社

NEC Radio Equipment Engineering Co., Ltd.

営業品目

◎電波・電子・通信機器・水中器材のオーバーホール
修理・保守及び工事

◎各種訓練機器・通信電子機器用部品の製造販売

本社・大和工場	神奈川県大和市上草柳350番地	〒242	☎0462-63-7811(代表)
営業本部(東京)	東京都港区芝4丁目7番7号田町アネックスビル	〒108	☎03-455-7680(代表)
営業本部(入間)	埼玉県入間市鍵山1丁目13番10号	〒358	☎0429-62-5451(代表)
府中工場	東京都府中市日新町1番10号	〒183	☎0423-64-3111(代表)

代表取締役社長 奥山 茂

座談会

信友会20年の歩み

出席者

櫻 義雄
中原 正行
大河原 三平
田中 邦明
矢口 弘
野口 裕
森 輝雄
鳶 末

司会及び記録

依田 文彌
杉浦 裕孝
関 幾雄
黒田 輝彦

期 日
58年7月29日

場 所

アンリツ電気(株) 応接室

司会 昭和59年は信友会創立20周年になります。そこで本日はこれを記念し、信友会の創立及び活動等に詳しい方々にお集まりいただき、「信友会20年の歩み」と題して、座談をお願いしたいと存じます。

信友会創立時のいきさつ、その後の経緯、現状、活動状況等についてお話しをお願いいたします。

創立のいきさつ

に会長をお願いしたわけですが、これが第一回総会と考えてよいと思っております。

中原 私、本日の座談会に備えて古い日記をしらべてみましたので少し補足してみましたと思います。何しろ古い時代の記憶で矢口さんと少しくいちがいがあるかもしれません。

群雄割拠の神代時代、37年3月頃通信団の高木さんから電話があり「中原さん、もう会社で馴れた頃でしからいっばい飲みながら体験談など聞かせてもらえませんか」ということで、3月3日四谷の中華料理店に集まりました。高木、川田、二上、加藤、河合さんと私の6名でした。今後毎月第一土曜日に集まることを決め、会の名称を土曜会とつけました。4月、5月、6月と実施し、7月は前団長を招待し、メンバーは前の6名に安成、高木、大久保、矢島さんが加わり10名でした。

8月、9月、10月、38年になって1月シグナル会という名称で25名参加しています。2月は15名(櫻、磯部、高木、川田、河合、桜井、大河原、杉山、矢島、山本、武田、秀島、安成、田口、私)でした。

その後一寸途絶えまして、39年2月18日にシグナル準備会というのが田町の新日本会館

司会 59年が20周年といえますと、創立は39年ですが、正しい年月日はいつでしょうか。またそれにいたるいきさつについてどうぞ。

矢口 昭和39年11月5日だったと思います。田町の札の辻会館で発会式をやったと記憶しております。

その時の経緯ですが、私は33年に退官しました。その頃は退官者も少なく、多分私が第一号だったと思いますが、その後陸幕調達班の関、小島、古川、秀島、黒田、磯田さん等が次々に退官されたので、旧調達班のOB会をやるということになり、当時毎月一回位で開かれています。この時RSCC次期幹事中原、補佐河合と書いてあり、次期開催はオリンピック過ぎの11月頃を予定するとなります。RSCCとは Retired Signal Corps Club (退官通信職種(の会))の略です。ところがなかなか準備が進まず、40年1月13日市ヶ谷会館でOB懇談会ということで集っております。39年11月の札の辻会館のことは私の記録にはありません。

40年は11月まで集りはなく、11月19日市ヶ谷会館で実施し、会の名称はRSCCと書いてあります。その時何名集ったかははつきりしませんが、徳永、矢口、有岡に幹事役を送るとなっております。その次は41年11月実施、名称はシグナルOB会となっております。

櫻 通信科全部の集りをもったのはRSCCが初めてでしたね。それまではいろいろなグループの集りがありましたね。

司会 中原さんの記録と矢口さんの記録とはちよつとくい違いがあるようですが、当時はいろいろなグループの会合があったのでしよう。その中で、調達班グループがOB会を作り動いていた一方、中原さんらの方もシグナル会とかRSCCという会を作り活動して

の割りによく集っております。その折り現役の方もたまに参加され、対島、岡さんら調達関係の方に入ってもらっております。

そのうち通信科職種幹部の退官者も増えてきたので、この際通信OB会をつくつたらという声が中原さん高木さんからその頃退官された河合さんに話をされて、河合さんと私とですでに発足している旧調達班OB会を母体として発足したように記憶しております。

発会式は札の辻会館で、76名に御案内したところ、雪の中にもかかわらず66名が参加されました。この席で皆さんの総意で、櫻さん



出席者 (向って左より) 森、矢口、大河原、中原、櫻、田中、野口、鳶末の各氏

いた。こうした折、河合さんらが各グループにコンタクトし、皆で一緒に集ろうということとで39年に統合した通信OB会が誕生したと考えてよいようです。

大河原 神代時代はいくつかの会があったようですが、信友会発生の時期は、通信OB会として一本化した39年11月ということになりますかね。

その後の経緯

矢口 その後、懇親会は40年11月市ヶ谷会館、41年11月九段会館とつづき、以後ほぼ毎年実施し、59年は20回になります。会員の増加に伴い参加者も逐年増えております。

田中 50年12月小林有一さんが通信課長時代、通信科創立25周年記念大会と合同で日本閣で実施した時は盛大でした。

寫末 現役220名、OB129名、計349名で会場が大変せまかったですね。

大河原 あの時は櫻さんが大変、ごきげんになられましたね。(笑) 最後の乾杯をお願いしていたのですがとうとうできなかったです。

ね。(笑)

矢口 会長は通信課長をやられた方になっていただこうということで、櫻さんについて安崎さん、平岡さん、山本さんにつづきましたが、45年から選挙によることになり再度平岡さんが会長となられ、そのあと53年大河原さんが就任して現在にいたっております。

司会 事務局的なものができたのはいつ頃のことですか。

矢口 40年頃です。しかし私一人です、会長と連絡をとりながらやっております。その後大河原さんが課長になってから「矢口一人では大変だろう。通信課でお手伝いしよう」という暖い言葉がありまして、当時監理担当だった寫末さんにお世話になりました。

大河原 事務量も相当なものですし、通信課で面倒みなければ仕様がなさそうと決めました。会の存在はそれなりに価値のあることですし、現役もお手伝いしようということです。通信課は情報も集まり連絡も容易だし、それにコマメな人がいましたからね。(笑)

寫末 課長から特命を頂きましたが、非公式にはその二年位前から関係していました。

矢口 会の名簿らしい名簿が初めてできた

のは寫末さんのおかげで、寫末さんが作ったといっても過言ではありません。

森 14周年ぐらまでは事務局はほとんど矢口さん一人でやってこられたんですね。

矢口 はい。そのため不行届きが多く、会員の方には大変御迷惑をかけておりました。この機会にお詫び申し上げます。

ただ平岡さんが沖電気におられ、同じ会社に入社した里見さんが手伝ってくれるようになり、さらに14周年以降江守さん、森さんが事務局に参画するようになりました。

現在は、下川、野口、森、森岡、依田さんと私が幹事ということで強力になっております。

司会 ところで「信友会」の名称になったのはいつですか。

野口 第9回までは通信OB会、第10回(48年12月)から信友会という名称が使われました。

田中 そう、私が課長のときで、八芳園でやったときですね。平岡さんが信友会という名称を使われたのを憶えています。平岡さんが名付け親でしょう。

矢口 会則ができたのは第5回の平岡さん

一年とんで56年2月、それから毎年出しております。次の第5号は20周年記念号として雑誌形式にすることとして、依田、杉浦、関さんがとりにくんでいます。

森 慶弔については会則にのせまして、それにより実施しております。気持としてはもつと出したいし、そうした意見もありますが、現在の財政状態では精いっぱいというところ

活動

司会 信友会の活動についてお話し下さい。

野口 信友会の活動は、懇親会の開催、名簿の作成を二大行事としてつづけてきており、これに機関紙の発行、慶弔、趣味・スポーツ活動を加え多彩になってきております。

懇親会は、13周年頃からは現役と共催で、新退官者(新会員)の歓送迎を兼ねて実施するようになり、毎年一月の最終土曜日に行な

うのが通例になってきました。参加者が増えてきていますので会場選定が大変で、17周年からは池袋の東方会館を使っております。20周年の記念懇親会もそこで59年2月25日(土)行なう予定です。

名簿の作成は従来三年に一回の割合で更新してきました。20周年行事の一つとして今回新名簿を作成しますが、今度は下川さんが担当幹事として、通信課とよく連絡をとりながら、大変な御苦労をして、基礎となるカードを作っております。今回はアイウエオ順に編さんした正確な名簿ができると思います。

森 従来は正規会員もそうでない退職通信幹部もいっしょにのっていました。極論すれば正規の会員だけを名簿にのせればいいはずですが、しかし非会員の名簿も会員にとっては便利ですから、こんどは別枠にしてのせるようです。

野口 機関誌を発行したのはつい最近です、たしか信友会15周年の記念行事の一環として作ったものでした。



司会・記録 (向って左より) 関、杉浦、依田、黒田

です。

司会 信友会として部隊等の行事に招待された時の祝金と、亡くなられた方への供花ですね。それに長寿のお祝いもしていますね。



第19回 懇親会風景

野口 長寿のお祝いは、70才以上で総会・懇親会に参加された方だけです。これはお土産といった程度のもので。

尾末 再婚、出産というのは対象になりませんか。(笑)

大河原 そこまでは面倒はみれませんが、OBになって子供が生れたということは本当は慶に該当するかもしれませんね。(笑)

田中 弔の問題で、東京近郊は何とか連絡がとれるでしょうが、地方の方の場合はどうしているのですか。

矢口 だれか知らせてくれればよいのですが、うまく連絡がとれず失礼している場合もあります。事後でもわかった段階で必要な処置をとるようにしています。

森 こういった場合の連絡のネットワークがありませんね。現役だとスムーズですがOBとなると難しいですね。少なくとも御遺族なり、そのことを知った他の会員には事務局までお知らせ願います。ただ信友という輪の中で会員相互の連絡をどうするかは大きな問題で考えなければならぬことでしょう。

司会 名簿にものつていますが、20年の年月の中で、相当数の会員がお亡くなりになっ

ております。謹んで御冥福をお祈りしたいと思います。

野口 趣味・スポーツ活動については、ゴルフ森さん、麻雀杉浦さん、トランプ野口とそれぞれ担当者を設け、年間の行事計画を立てて計画的に実施しております。釣、碁、旅行なども行いたいのですが、適当な世話役を得られず、具体的には動いておりません。

森 信友会のゴルフは歴史が古く、さる5月13日のコンペは第18回でした。現在は原則として年3回計画しています。これまでの参加会員は約50名ですが毎回この半分程度が出席します。趣味活動のグループとしては割合活発なほうでしょう。成績等の記録は全部ファイルしてあります。

大河原 初めころは現役組にも声をかけてやっていたのですが、逐次会員の参加が良くなつて、最近ではもっぱらOBだけのコンペになりましたね。そのため現役との交流の機会が少なくなつたので、今では逆に現役の企画に信友会の枠をいくらかもらつてこちらが参加するようにしています。

杉浦 その場合人選が大変で、常に優勝を遠慮する程度の人を選ぶのに御苦労があるよ

うですね。(笑)

野口 ゴルフは希望者が多く、幹事がネを上げる程です。

杉浦 麻雀は年2回程度大会を開いていますが、これも現役との交流にも役立たせる意味で現役の同好者に参加してもらっています。

野口 トランプは、今年の2月に最初の会をもつことができたが、会員の中では10名位しか集まらなかったため、現役と共催し28名で実施しました。今後年2回の割りでつづけたいと思っています。なおこのトランプ同好会は上野さんに御世話願っています。

矢口 釣は日限さんが松下通工におられる頃、日限さんの御世話で久里浜でやったことがありますが、現在は世話役を引きうける人がおらずに消え状態になっております。誰か私がやろうという人はいないでしょうか。

問題点

司会 信友会の今後の課題といえますが、問題点についてはいかゞでしょう。

田中 問題点としては、地方の問題、会費

の問題、事務局の問題などがあるでしょう。

矢口 懇親会や各種趣味活動はどうしても東京が中心となり、地方の会員の参加は仲々難しい。地方の会員の親睦を図るため地方支部は設立できないかということで、平岡会長の時からいろいろ努力していますが仲々実現できません。各地方で中心となるOBに手をもたせたい、地元部隊と協力して推進して貰えるとういのです。

尾末 方面隊に通信課がなくなったことは痛手ですね。OBを掌握して貰える所がない。それに地方には既にいろいろな団体ができています。隊友会、各部隊毎の協力会やOB会のある所に重ねて信友会の支部を作るということは大変でしょう。ですからあまり無理をしないで徐々に輪を拡げていけば良いと思います。

森 各地方の会を中心になつて活動している役員には、元陸曹、元准尉といった方が多いのが目につきます。会の母体が違うわけですから元幹部だけをピックアップして信友会支部といつてもちよつと無理でしょう。信友会の会を例えれば地方に向いて行等、運営方法の検討も必要でしょう。しかしこれ

も地方の方々の意志が更に熱いといふと難しいかも知れません。

矢口 地方の現役の方に対する信友会のPRも必要でしょうね。

田中 終身会費五、〇〇〇円で将来もやっていけるでしょう。

森 会の事業規模が現在の程度であれば何とかやっていけると思っています。会費の使途は慶弔費、通信費等として、特に費用を要する行事は受益者負担でやっています。

野口 会費をとるようになったのは46年頃だったと思います。年会費一、〇〇〇円という制度が何年かあったと記憶しています。50年から入会金だけの終身会費五、〇〇〇円となつています。終身会費としたのは、信友会には専任員がいなかったため毎年多くの方からの集金は不可能であるからです。懇親会費が二、〇〇〇円時代の五、〇〇〇円ですが、やっていける限り値上げはしたくありませんね。

田中 事務局の仕事量、これは大変でしょうね。今までは矢口さん、森さんに随分御世話になつておりますが。

大河原 元気の間はやつて貰いましょう。(笑)